

阪神・淡路大震災から 20 年 「神戸港の貿易」



平成 26 年 12 月 17 日
神戸税関
私のまちの NATIONAL GATE

神戸港は、昔から天然の良港とされ、明治元年(1868年)に兵庫港として開港(外国貿易船が出入りできる港)しました。戦後、神戸港の貿易は、経済成長とともに輸出を中心に飛躍的な増加を示し、昭和42年に摩耶埠頭が竣工し、日本で初めてコンテナ船が入港、昭和56年にポートアイランド、平成4年には六甲アイランドが竣工し、震災前の神戸港は、世界有数のコンテナ取扱港に飛躍しました。



年	輸出額(千円)	主要品目
明治元	1868	449 茶、生糸
大正元	1912	150,476 綿織糸、銅
昭和元	1926	680,682 生糸、生金巾
20	1945	79,615 不明
40	1965	901,602,232 綿織物、合成繊維織物
50	1975	2,693,682,340 合成繊維織物、金属製品
60	1985	5,238,928,741 合成繊維織物、VTR
平成元	1989	4,782,567,634 事務用機器、原動機
5	1993	4,876,927,044 繊維製品、原動機
年	輸入額(千円)	主要品目
明治元	1868	688 繰綿、小銃
大正元	1912	302,200 繰綿、米
昭和元	1926	1,052,418 繰綿、羊毛
20	1945	343,480 不明
40	1965	405,509,029 綿花、天然ゴム(生)
50	1975	1,302,570,362 綿花、大豆
60	1985	2,111,507,606 衣類、果実及び野菜
平成元	1989	2,458,974,607 衣類、魚介類及び同調製品
5	1993	2,247,954,209 衣類、繊維製品

平成7年1月17日に発生した、阪神・淡路大震災から来年1月で20年の節目を迎えます。

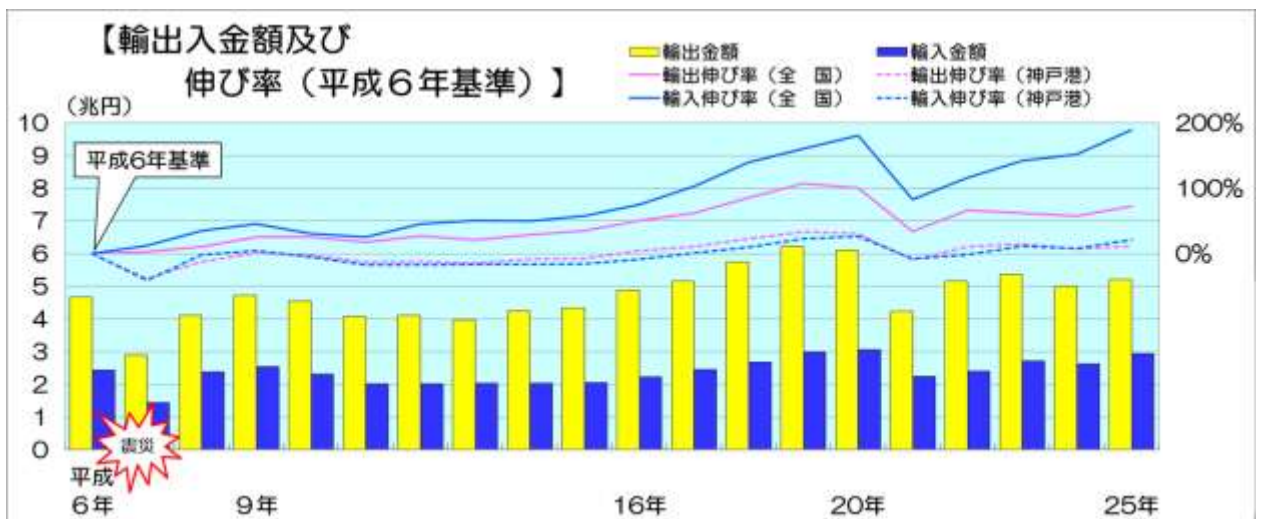
壊滅的被害を受けた神戸港が完全復旧を果たしたのは、約2年後の平成9年3月でした。

震災から20年を迎える神戸港には、いま客船の寄港が増え、今年は、クイーン・エリザベス号(3代目)や日本で建造された客船では最大の豪華客船ダイヤモンド・プリンセス号が初寄港しています。街と港を結ぶウォーターフロントの再開発も進められ、人が集う場所として神戸港に新たな賑わいが感じられるようになってきました。

そのような神戸港を、今回は輸出入の貿易から見てみることにしました。

1. 神戸港の輸出入(金額)の動向

震災の年に大きな影響を受けた神戸港の輸出入は、震災から2年後の平成9年には震災前(平成6年)の数値に戻りましたが、その後は様々な要因によって増減を繰り返し、平成25年の伸び率(平成6年基準)は、輸出は11.7%、輸入は21.2%となっています。一方、全国の伸び率は、輸出は72.3%、輸入は189.1%となっており、日本の貿易が大きく伸長するなか、神戸港は伸び悩んでいる状況です。



為替レート(平成6年 102.63 円/ドル、平成16年 108.28 円/ドル、平成25年 96.91 円/ドル)

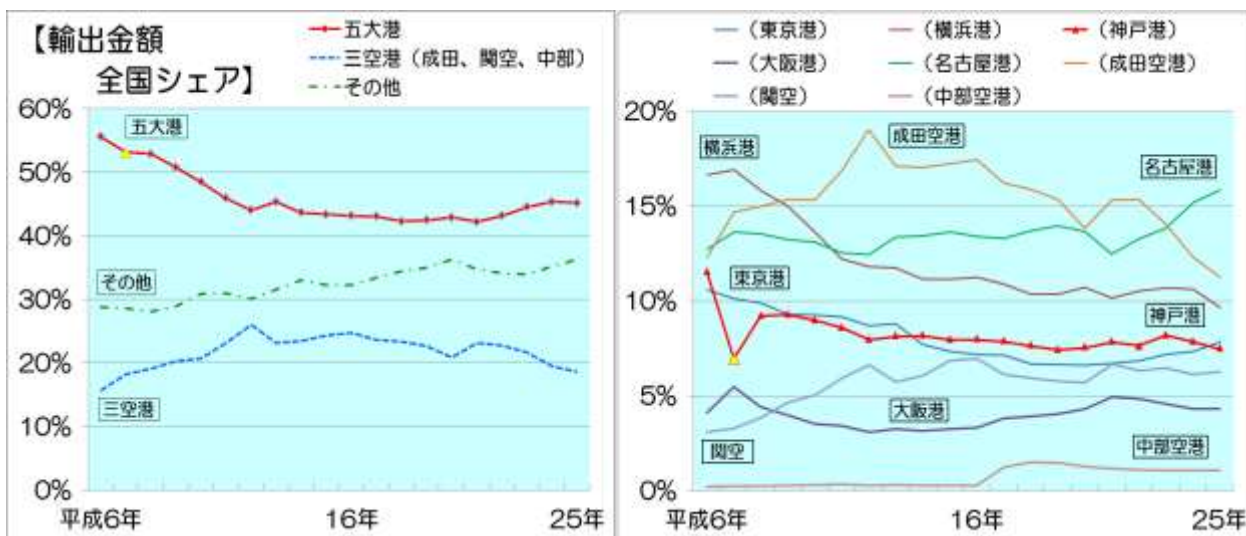
※為替レート=税関長が毎週公示しているレートを、適用日数で加重平均したもの。

2. 全国の輸出入（金額）の動向

(1) 輸 出

全国の輸出金額の動向について、五大港（東京港、横浜港、神戸港、大阪港、名古屋港）、三空港（成田国際空港、関西国際空港、中部国際空港）及びその他の全国シェア（全国の輸出額に占める割合）からみると、三空港と地方港などのその他の全国シェアが伸びるなか、五大港の全国シェアは、震災以前から減少傾向で推移し、平成10年には48.5%となって遂に5割を切りましたが、平成21年の42.2%を底に、増加傾向で推移しています。

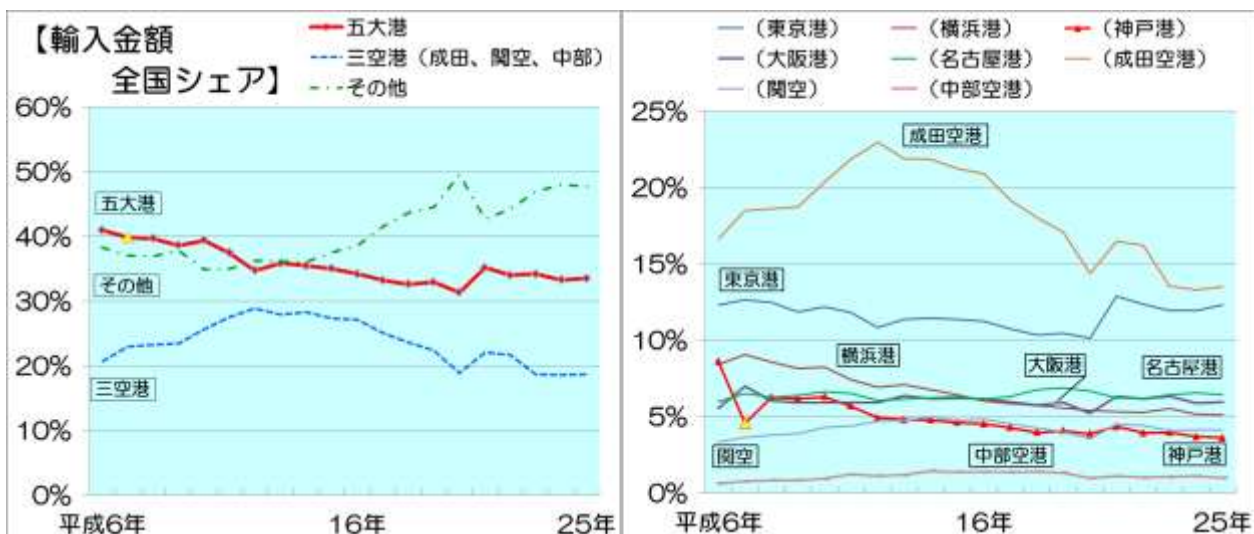
神戸港の全国シェアは、平成6年に11.5%占めていたものが、震災によって7.0%に落ち込み、平成9年に9.3%まで回復したものの、その後は漸減し、平成25年は7.5%となっています。



(2) 輸 入

全国の輸入金額の動向について、五大港、三空港及びその他の全国シェア（全国の輸入額に占める割合）からみると、平成12年をピークに三空港の全国シェアが伸び、その後は地方港などのその他の全国シェアが伸びるなか、五大港のシェアは、震災前から減少傾向で推移していましたが、平成20年の31.4%を底に、横ばいで推移しています。

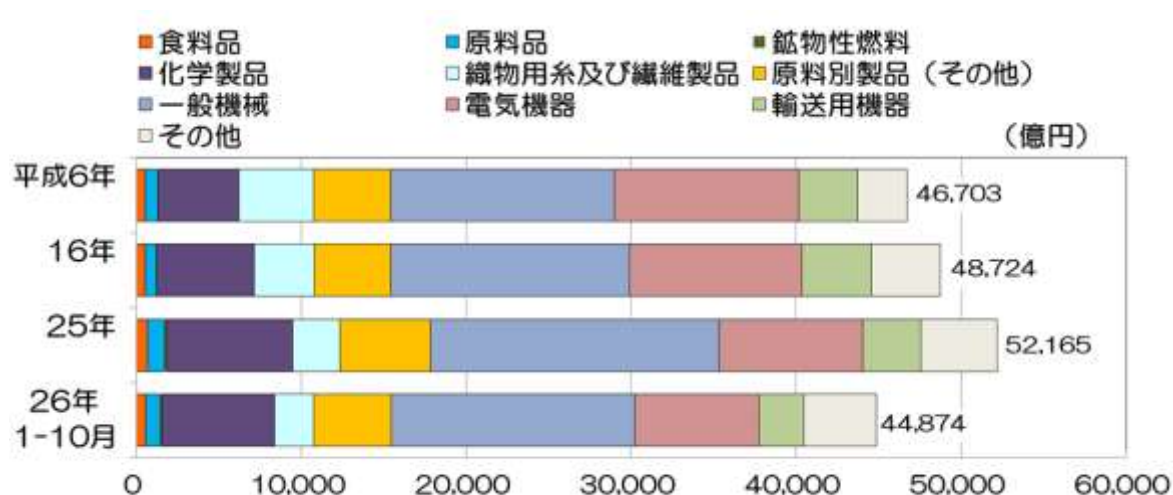
神戸港の全国シェアは、平成6年に8.7%占めていたものが、震災によって4.6%に落ち込み、翌平成8年に6.3%まで回復したものの、その後は漸減し、平成25年は3.6%となっています。



全国における神戸港の貿易額（総額）の港別順位は、総額で、平成6年は4位（成田>横浜>東京>神戸>名古屋>大阪>>>関空（9位））、平成7年は6位（成田>横浜>東京>名古屋>大阪>神戸>>>関空（9位））、平成25年及び平成26年1-10月は5位（成田>名古屋>東京>横浜>神戸>大阪>関空）となっています。

3. 神戸港における主要品目の変遷

(1) 輸 出



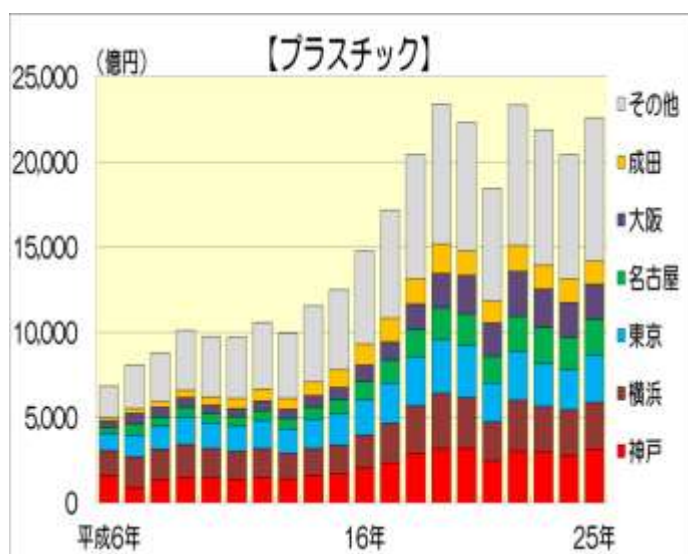
平成6年と平成25年の概況品の増減をみると、一般機械、化学製品は増加する一方、電気機器、織物用系及び繊維製品（原料別製品）が減少しています。

一般機械は、建設用・鉱山用機械、原動機が増加する一方で繊維機械は減少しました。化学製品は、プラスチックが増加し、電気機器は、映像機器や半導体等電子部品が減少しました。

平成6年における神戸港の主要輸出品目は、織物用系及び繊維製品、原動機、半導体等電子部品、映像機器、プラスチックでした。

平成25年は、プラスチック、織物用系及び繊維製品、原動機、建設用・鉱山用機械、科学光学機器となっています。

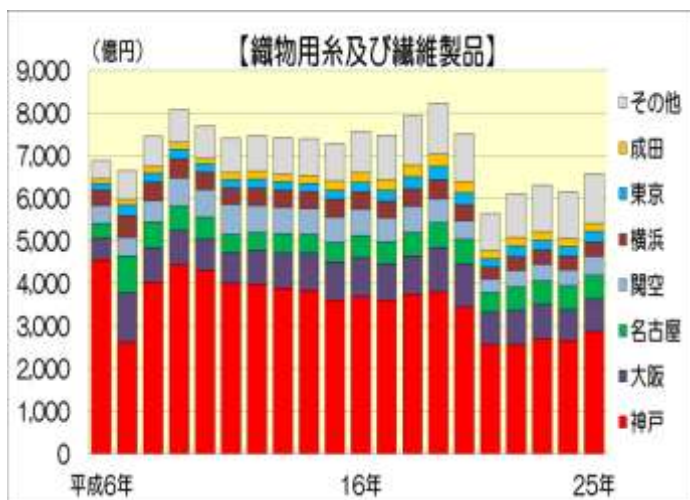
次に、これらの主要輸出品目について、それぞれ20年の変遷をみていきます。



プラスチック

平成6年の全国シェア（全国の輸出額に占める神戸港の割合）は、23.3%で、平成25年は、13.9%と縮小しました。神戸港シェア（神戸港の輸出額に占める割合）は、平成6年の3.4%から平成25年は6.0%に拡大しました。

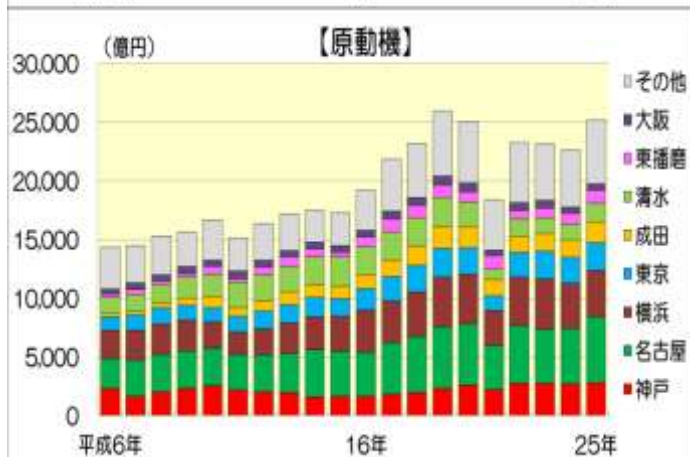
平成6年は、ポリビニールアルコール（PVA）ブロック、ポリエチレンテレフタレート（PET）シートが輸出され、平成25年は、液晶関連の素材となるPETシートや酢酸セルロースシート、アクリルポリマーが輸出されています。



織物用糸及び繊維製品

平成6年の全国シェアは、66.0%で、平成25年は、43.6%と縮小しました。神戸港シェアも、平成6年の9.7%から平成25年は5.5%に縮小しました。

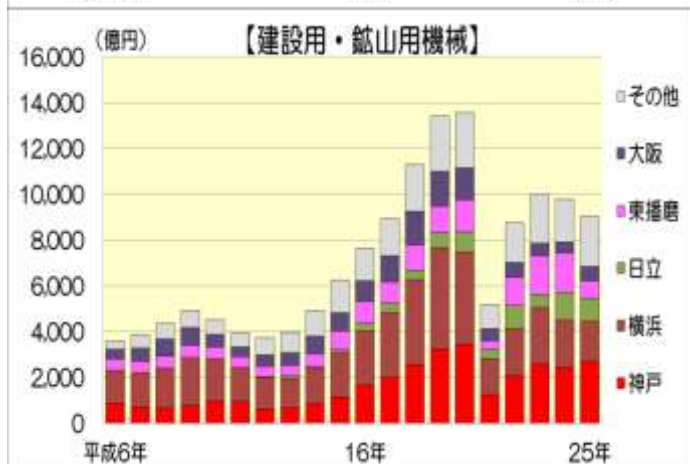
平成6年は、ポリエステル製の織物や糸、不織布が輸出され、平成25年は、ポリエステル製織物、ポリウレタンなどのプラスチックを染み込ませるなどした織物やデニム生地が輸出されています。



原動機

平成6年の全国シェアは、16.3%で、平成25年は、11.2%と縮小しました。神戸港シェアは、平成6年の5.0%から平成25年は5.4%に拡大しました。

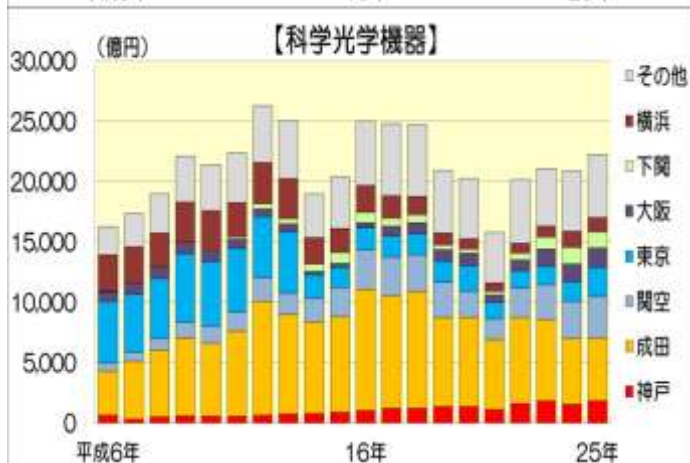
平成6年は、車両用エンジンが輸出され、平成25年は、発電用の蒸気タービンやガスタービンの部分品が輸出されています。



建設用・鉱山用機械

平成6年の全国シェアは、24.5%で、平成25年は、29.7%と拡大しました。神戸港シェアも、平成6年の1.9%から平成25年は5.1%に拡大しました。

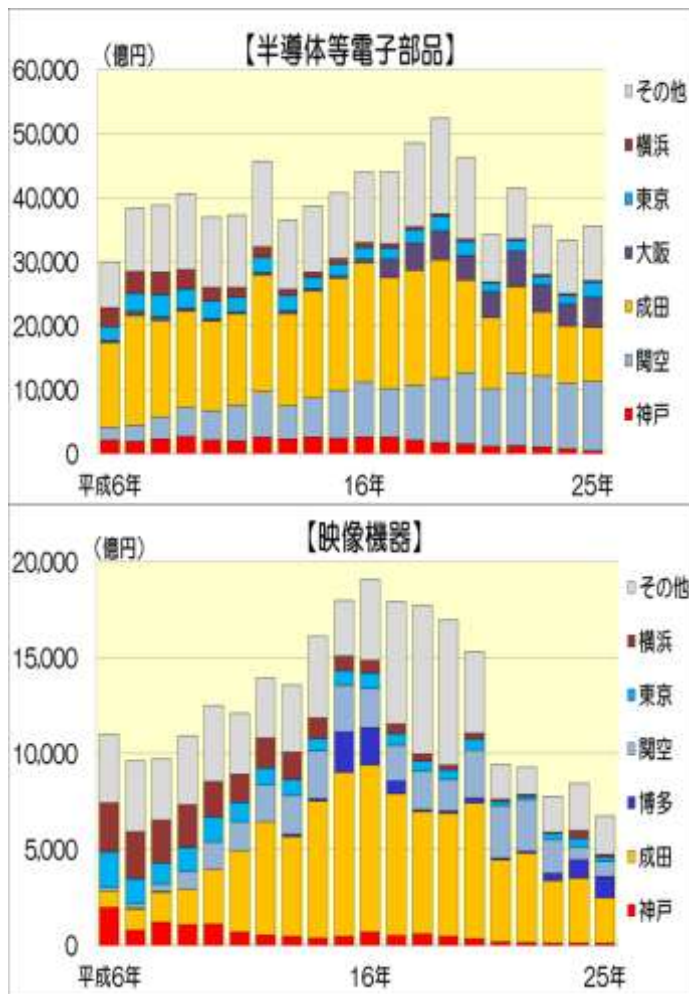
平成6年当時からショベルカーやブルドーザーを中心に輸出されています。



科学光学機器

平成6年の全国シェアは、3.9%で、平成25年は、8.3%と拡大しました。神戸港シェアも、平成6年の1.4%から平成25年は3.5%に拡大しました。

平成6年は、フィルム式カメラやレンズが輸出され、平成25年は、液晶デバイス、偏光材料製シートが輸出されています。



半導体等電子部品

平成6年の全国シェアは、7.1%で、平成25年は、1.3%に縮小しました。神戸港シェアも、平成6年の4.5%から平成25年は0.9%に縮小しました。

平成6年は、テレビやビデオ用などの陰極線管（ブラウン管）が輸出され、平成25年は、IC関連のマイクロコントローラー（MCU）、デジタルシグナルプロセッサ（DSP）が輸出されています。

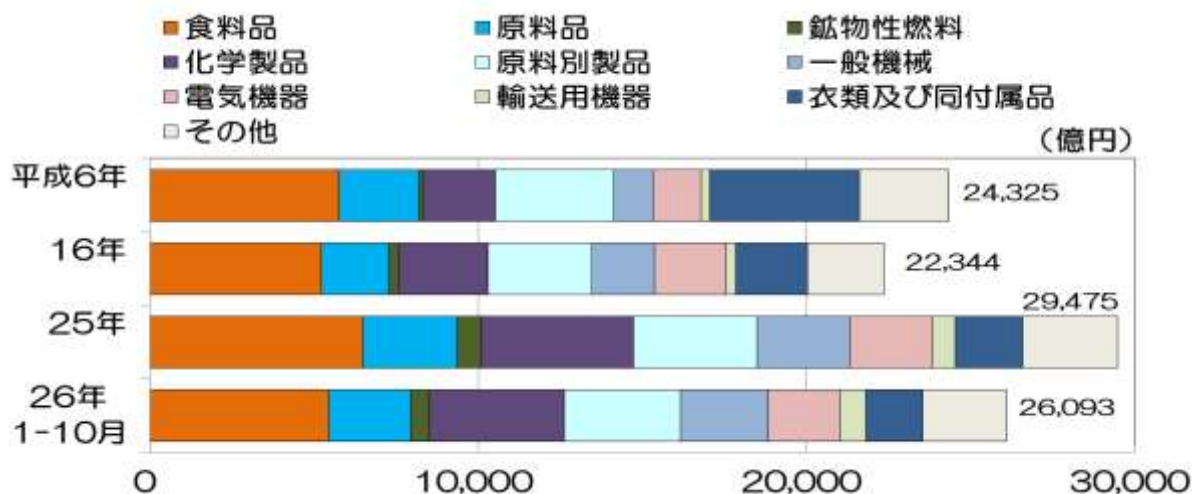
映像機器

平成6年の全国シェアは、17.9%で、平成25年は、1.6%に縮小しました。神戸港シェアも、平成6年の4.2%から平成25年は0.2%に縮小しました。

平成6年は、ビデオテープレコーダー、ビデオカメラが輸出され、平成25年は、液晶モニター、デジタルカメラが輸出されています。



(2) 輸 入



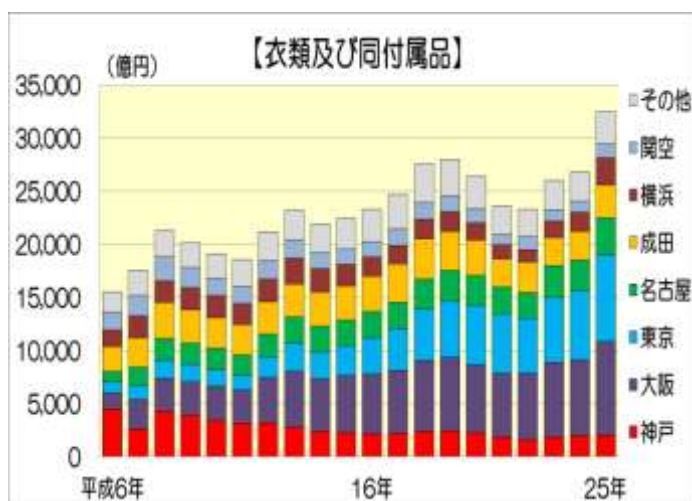
平成6年と平成25年の概況品の増減をみると、化学製品、一般機械、電気機器、食料品が増加する一方、衣類及び同付属品が減少しています。

化学製品は、有機化合物、プラスチックが増加し、一般機械は、加熱用・冷却用機器、原動機が増加しました。電気機器は、半導体等電子部品が増加する一方で音響・映像機器が減少し、食料品は、たばこが増加する一方で魚介類及び同調製品が減少しています。衣類及び同付属品は大きく減少し、原料別製品については、織物用糸及び繊維製品が減少する一方で非鉄金属が増加しています。

平成6年の神戸港の主要輸入品目は、衣類及び同付属品、織物用糸及び繊維製品、電気機器、魚介類及び同調製品、果実及び野菜でした。

平成25年は、衣類及び同付属品、たばこ、有機化合物、プラスチック、非鉄金属となっています。

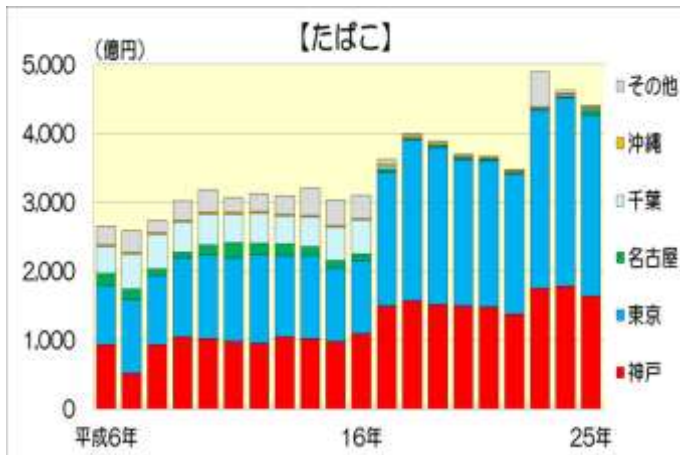
次に、これらの主要輸入品目について、それぞれ20年の変遷をみていきます。



衣類及び同付属品

平成6年の全国シェアは、29.2%で、平成25年は、6.3%と縮小しました。神戸港シェアも、平成6年の18.7%から平成25年は7.0%に縮小しました。

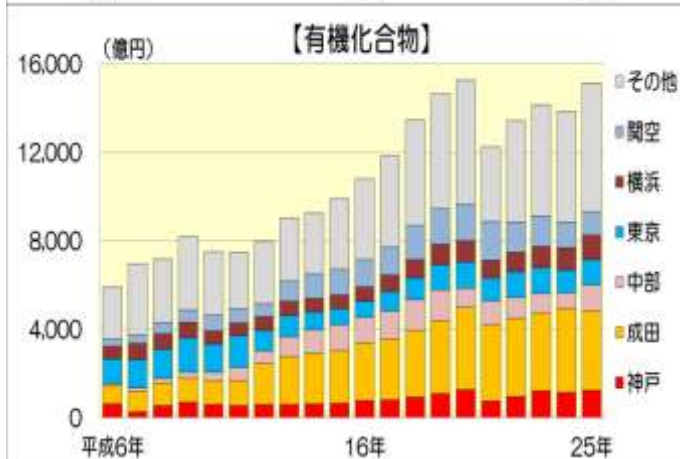
平成6年は、男性用外衣、ズボン、ウールのセーターが輸入され、平成25年は、Tシャツ、肌着を中心に機能性衣料やズボンが輸入されています。



たばこ

平成6年の全国シェアは、34.9%で、平成25年は、37.1%と拡大しました。神戸港シェアも、平成6年の3.8%から平成25年は5.6%に拡大しました。

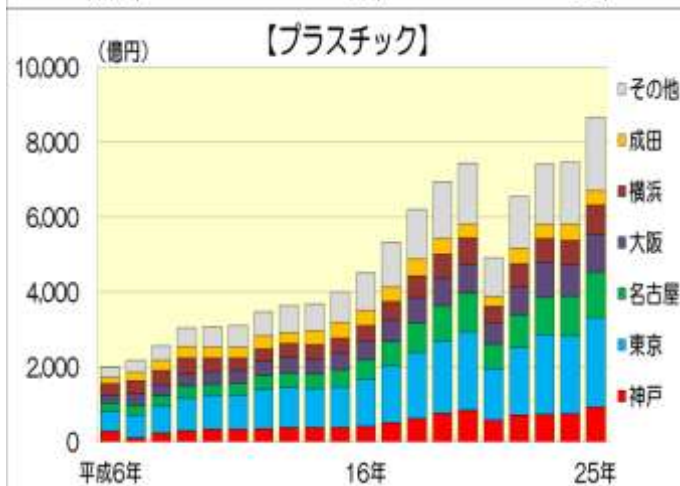
平成6年当時から紙巻きたばこが輸入されています。



有機化合物

平成6年の全国シェアは、10.4%で、平成25年は、8.3%と縮小しました。神戸港シェアは、平成6年の2.5%から平成25年は4.2%に拡大しました。

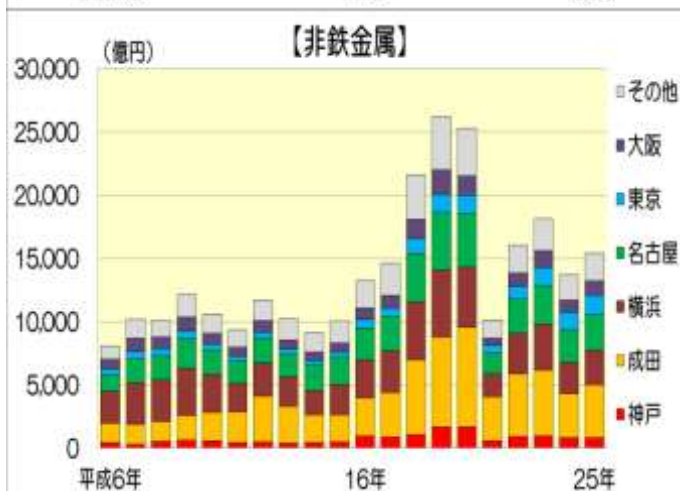
平成6年当時からプラスチック、医薬品などの原料が輸入されています。



プラスチック

平成6年の全国シェアは、14.7%で、平成25年は、10.7%と縮小しました。神戸港シェアは、平成6年の1.2%から平成25年は3.1%に拡大しました。

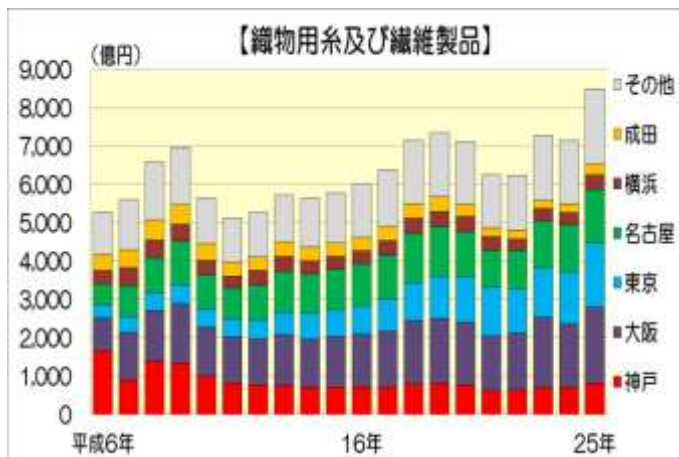
平成6年は、ポリアミド、ポリエチレンシートが輸入され、平成25年は、ペットボトル等の原料となるPETや液晶ディスプレイ関連などの素材の原料となる酢酸セルロースが輸入されています。



非鉄金属

平成6年の全国シェアは、5.8%で、平成25年は、5.5%と縮小しました。神戸港シェアは、平成6年の1.9%から平成25年は2.9%に拡大しました。

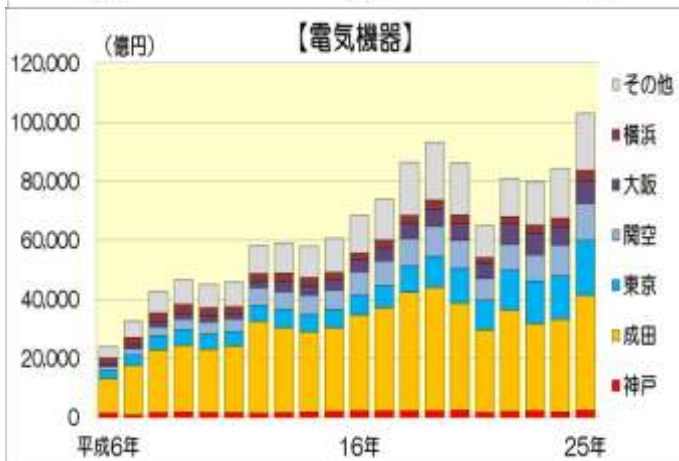
平成6年は、コバルト、陰極銅、ニッケルが輸入され、平成25年はコバルト、アルミニウム合金、ニッケル、インジウムが輸入されています。



織物用糸及び繊維製品

平成6年の全国シェアは、31.8%で、平成25年は、9.6%に縮小しました。神戸港シェアも、平成6年の6.9%から平成25年は2.8%に縮小しました。

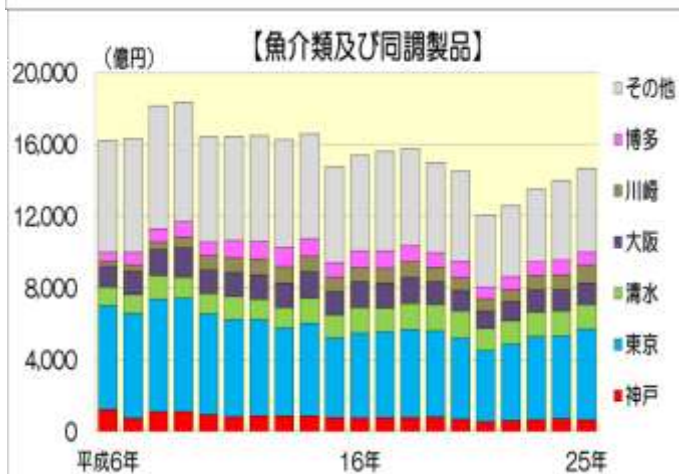
平成6年は、綿糸、絹糸、綿製品が輸入され、平成25年は、繊維製品、不織布、合成繊維の糸が輸入されています。



電気機器

平成6年の全国シェアは、6.0%で、平成25年は、2.4%に縮小しました。神戸港シェアは、平成6年の6.0%から平成25年は8.5%に拡大しました。

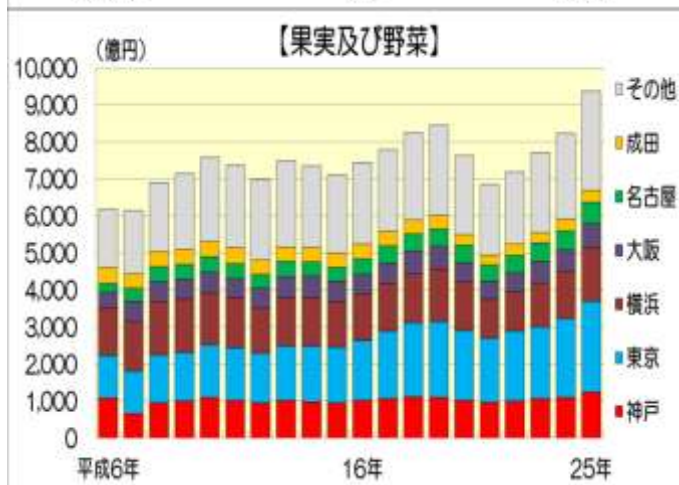
平成6年は、映像・音響機器の部分品、カラーテレビが輸入され、平成25年は、光電池、航行用無線機、自動車用配線セットが輸入されています。



魚介類及び同調製品

平成6年の全国シェアは、7.6%で、平成25年は、4.5%に縮小しました。神戸港シェアも、平成6年の5.1%から平成25年には2.2%に縮小しました。

平成6年は、冷凍エビ、魚の調製品、冷凍イカが輸入され、平成25年は、冷凍エビ、魚の調製品、魚肉、冷凍イカが輸入されています。



果実及び野菜

平成6年の全国シェアは17.6%で、平成25年は、13.2%に縮小しました。神戸港シェアも、平成6年の4.5%から平成25年は4.2%に縮小しました。

平成6年は、バナナ、カボチャ、小豆、ブロッコリー、玉ねぎが輸入され、平成25年はバナナ、キウイ、カボチャ、冷凍ポテト、スイートアーモンドが輸入されています。

4. 主要輸出入相手地域・国の変遷

(1) 輸 出

(億円)

輸出	平成6年			平成16年			平成25年		
	総額	46,703	シェア	総額	48,724	シェア	総額	52,165	シェア
1位	アジア	26,315	56.3%	アジア	27,943	57.3%	アジア	31,477	60.3%
2位	北米	8,839	18.9%	北米	8,662	17.8%	北米	8,065	15.5%
3位	西欧	6,379	13.7%	西欧	7,334	15.1%	西欧	5,739	11.0%
4位	中東	1,759	3.8%	中南米	1,507	3.1%	中南米	2,368	4.5%
5位	中南米	1,708	3.7%	中東	1,265	2.6%	中東欧・ロシア等	1,634	3.1%
6位	大洋州	841	1.8%	アフリカ	718	1.5%	中東	1,547	3.0%
7位	アフリカ	622	1.3%	中東欧・ロシア等	677	1.4%	アフリカ	766	1.5%
8位	中東欧・ロシア等	241	0.5%	大洋州	618	1.3%	大洋州	569	1.1%
1位	米国	8,193	17.5%	中国	10,929	22.4%	中国	11,406	21.9%
2位	中国	4,248	9.1%	米国	8,361	17.2%	米国	7,787	14.9%
3位	香港	4,236	9.1%	香港	3,444	7.1%	タイ	3,489	6.7%
4位	台湾	3,625	7.8%	台湾	3,435	7.0%	台湾	3,206	6.1%
5位	シンガポール	3,108	6.7%	韓国	2,161	4.4%	韓国	2,825	5.4%
6位	韓国	2,750	5.9%	タイ	2,136	4.4%	香港	2,235	4.3%
7位	タイ	2,459	5.3%	ドイツ	1,674	3.4%	インドネシア	1,846	3.5%
8位	マレーシア	2,169	4.6%	マレーシア	1,493	3.1%	ドイツ	1,608	3.1%
9位	インドネシア	1,785	3.8%	シンガポール	1,264	2.6%	マレーシア	1,506	2.9%
10位	ドイツ	1,601	3.4%	インドネシア	1,248	2.6%	ベトナム	1,292	2.5%
11位	英国	1,200	2.6%	英国	1,188	2.4%	シンガポール	1,183	2.3%
12位	フィリピン	938	2.0%	オランダ	1,139	2.3%	オランダ	1,041	2.0%
13位	オランダ	703	1.5%	フランス	837	1.7%	フィリピン	982	1.9%
14位	カナダ	646	1.4%	フィリピン	648	1.3%	インド	960	1.8%
15位	サウジアラビア	605	1.3%	ベルギー	567	1.2%	メキシコ	900	1.7%
16位	オーストラリア	579	1.2%	イタリア	559	1.1%	フランス	825	1.6%
17位	フランス	492	1.1%	UAE	512	1.1%	英国	708	1.4%
18位	ベルギー	481	1.0%	ベトナム	510	1.0%	UAE	678	1.3%
19位	UAE	478	1.0%	オーストラリア	414	0.8%	ロシア	594	1.1%
20位	イタリア	476	1.0%	メキシコ	403	0.8%	サウジアラビア	539	1.0%

平成6年と平成25年の増減をみると、アジアが5,162億円増加して、神戸港の輸出額に占める割合が56.3%から60.3%に拡大し、平成6年当時も平成25年も神戸港最大の輸出相手地域となっています。続いて、中東欧・ロシア等、中南米、アフリカが増加しています。北米は、774億円減少し、続いて西欧、大洋州、中東が減少しています。

アジアでは、中国の増加が著しく、米国を抜いて神戸港最大の輸出相手国となりました。そのほかベトナム（33位（137億円）→10位）、タイ、インド（21位（449億円）→14位）が増加する一方、香港、シンガポールは大きく減少しています。中東欧・ロシア等では、ロシア（44位（105億円）→19位）が増加し、中南米では、メキシコ（22位（353億円）→15位）が増加しています。北米では、米国、カナダ（14位→27位（278億円））が減少し、西欧では、英国が減少しています。

(2) 輸 入

(億円)

輸入	平成6年			平成16年			平成25年		
	総額	24,325	シェア	総額	22,344	シェア	総額	29,475	シェア
1位	アジア	13,731	56.4%	アジア	11,221	50.2%	アジア	15,572	52.8%
2位	北米	4,984	20.5%	北米	4,502	20.1%	西欧	6,052	20.5%
3位	西欧	3,562	14.6%	西欧	4,434	19.8%	北米	4,649	15.8%
4位	大洋州	775	3.2%	大洋州	894	4.0%	中南米	1,202	4.1%
5位	中南米	713	2.9%	中南米	762	3.4%	大洋州	942	3.2%
6位	アフリカ	292	1.2%	アフリカ	221	1.0%	中東欧・ロシア等	555	1.9%
7位	中東	148	0.6%	中東欧・ロシア等	176	0.8%	アフリカ	256	0.9%
8位	中東欧・ロシア等	119	0.5%	中東	134	0.6%	中東	247	0.8%
1位	中国	7,549	31.0%	中国	6,889	30.8%	中国	8,898	30.2%
2位	米国	4,495	18.5%	米国	3,829	17.1%	米国	3,797	12.9%
3位	タイ	1,246	5.1%	ドイツ	1,206	5.4%	ドイツ	1,510	5.1%
4位	台湾	1,098	4.5%	タイ	777	3.5%	タイ	1,242	4.2%
5位	ドイツ	848	3.5%	マレーシア	725	3.2%	オランダ	1,082	3.7%
6位	韓国	787	3.2%	カナダ	672	3.0%	韓国	1,031	3.5%
7位	インドネシア	696	2.9%	オーストラリア	615	2.8%	台湾	893	3.0%
8位	フランス	526	2.2%	フランス	587	2.6%	カナダ	852	2.9%
9位	マレーシア	498	2.0%	韓国	547	2.4%	ベトナム	808	2.7%
10位	カナダ	487	2.0%	インドネシア	488	2.2%	マレーシア	674	2.3%
11位	英国	482	2.0%	台湾	475	2.1%	インドネシア	654	2.2%
12位	オーストラリア	473	1.9%	英国	474	2.1%	オーストラリア	650	2.2%
13位	イタリア	423	1.7%	ベトナム	408	1.8%	フランス	588	2.0%
14位	インド	391	1.6%	イタリア	399	1.8%	フィリピン	537	1.8%
15位	フィリピン	352	1.4%	フィンランド	365	1.6%	英国	524	1.8%
16位	シンガポール	310	1.3%	フィリピン	337	1.5%	ブラジル	517	1.8%
17位	ブラジル	277	1.1%	ブラジル	284	1.3%	イタリア	423	1.4%
18位	パキスタン	266	1.1%	ニュージーランド	241	1.1%	スイス	397	1.3%
19位	ニュージーランド	240	1.0%	インド	213	1.0%	フィンランド	305	1.0%
20位	香港	234	1.0%	オランダ	208	0.9%	インド	300	1.0%

平成6年と平成25年の増減をみると、西欧が2,489億円増加して、神戸港の輸入額に占める割合が14.6%から20.5%に拡大し、北米を抜いて平成6年当時第3位から第2位に順位を上げています。次にアジアの増加が大きく、神戸港の輸入額に占める割合はわずかに下がったものの、平成6年と変わらず神戸港最大の輸入相手地域となっています。続いて中南米、中東欧・ロシア等、大洋州、中東が増加しています。北米は、335億円減少し、そのほかアフリカが減少しています。

西欧では、オランダ(23位(183億円)→5位)、ドイツ、フィンランド(35位(65億円)→19位)、スイス(21位(217億円)→18位)が増加しています。アジアでは、中国、ベトナム(22位(193億円)→9位)が大きく増加する一方、パキスタン(18位→48位(41億円))、台湾、香港(20位→42位(48億円))が減少しました。中南米では、ブラジルが増加しています。北米では、米国の減少が大きい一方、カナダが増加しています。

5. おわりに

今回の特集は、震災から10年目を前に発表した、『神戸港の貿易～震災から10年～』（平成16年12月）の続編となっています。



震災10年目を迎えても、アジアでの通貨危機、リーマン・ショック、タイでの洪水被害、最近では為替の変動と様々な出来事がありました。震災から10年後の平成16年前後の日本の輸出入（金額）は、過去最高を更新していきましたが、平成20年から円高が進行すると、昭和56年から続いていた貿易黒字が一転、平成23年に赤字に転じ、その後、平成25年から円安が進んでいますが、火力発電用燃料の調達、企業の海外投資もさらに進み、様々な要因で輸入額の伸びが輸出額の伸びを上回る状況にあります。今後の貿易収支がどのように改善されるのか注視されるところです。

現在、神戸港は大阪港と一体となり「阪神港」として機能しています。今後ますます貨物が集まり、荷動きが活発になることを願って止みません。



本資料を転載するときは「神戸税関」の資料による旨を注記して下さい。

なお、本資料のお問い合わせは、

神戸税関調査部調査統計課

TEL (078) 333-3065 またはメールで kobe-toukei@customs.go.jp まで

「神戸税関ホームページ」のアドレス <http://www.customs.go.jp/kobe/>